季刊 まち・コミ　2013年 秋号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

【出石市民農園】 黒大豆の枝豆購入による応援をお願いしています。 詳しくはチラシをご覧ください。

今月の注目記事　P１　内発的まちづくりに向けて　－事実の聴き取りから、 立ち位置を確認して動く－

東日本大震災３年目

内発的まちづくりに向けて

－事実の聴き取りから、 立ち位置を確認して動く－

東日本大震災から2年半。2013年9月11日の読売新聞朝刊に、『安住の時　見通せず』と題して、宮城県・岩手県の被災者へのアンケート調査が掲載されていた。結果で、一番多い割合を占めるのは、現在の住宅については「仮設住宅６４％」、永住できるすまいに引っ越しできる時期については「見通しが立たない５２％」、また、地域が復興できると思うかについては「思わない４３％」である。将来展望に悩んでいる様子がうかがえる。

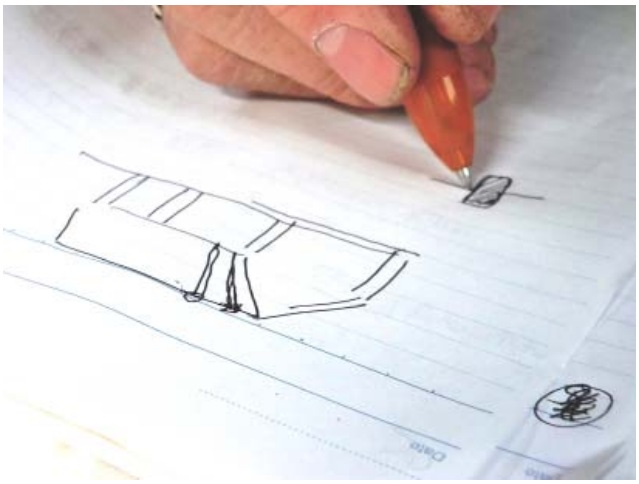
そこでまち・コミは、東日本大震災において、復興事業を把握するのはもちろんだが、「復興は自分達（住民自ら）の手で！」という心に灯を点すため、目に見えること体験できることは、安易に聞かずにしっかり見、共に体験し、聴き続けて、想いを表現できる場をつくり、“必ず住民は自ら動く”を信じて行動していきたいと思っています。

漁村を周りながら、明治から現代までの個人史や地域史を聴き、住民が振り返る機会をつくっている。津波でほぼ全てを流されたまちで、過去と通じる具体的なものが少ないため、聴き取ることは難しい。そこで、地域の方から、聴かせて頂いた後、図書館等で文献調査を行った後、再度漁村に向かうことを繰り返す。そこで把握できた１つは、高度経済成長や漁法の変遷（２００海里）により、どのように地区から人が出ていき、地域を維持するため1980年から、養殖産業で生計が立てられるよう努力された。その苦悩の過程の中に地区の特徴（立

▲５日間にわたるヒアリング

ち位置）があり、時の利、地の利を活かしている。「（中略）何より住民たちが故郷のことをあらためて考え直し、魅力を再発見することで、誇りをもてるようになる。人はルーツを知り、立ち位置を確認せずに安心して歩み出せるだろうか１）。」そこで、"（外部者が動くのでなく）聴き取りと共有の場をつくるのみで、住民自ら動くことを信じ、ただただ住民のペースで横にいることに徹する" ことを心し、そこから、身の丈にあい継続できるまちづくりを目指して支援活動を行っている。

最近の例を一つあげると、津波で家が流され親族の家に身を寄せる男性と、地元住民会議で出会い、会議の数日後、まち・コミは、会議の中で、誰もわからなかった事項を調べて来、その関連情報を彼へ持って行くと、彼からこれまでの生活再建・復興まちづくり、そして時々での想いを語り始め、５日間連続して聴き続けた。途中から彼は、これまでの経験の中で興味のあることの数々を話し始めた。彼は森林をずっと整備してきたそうで、森林関係の資料を見せて下さった。まち・コミはその資料を借り、森林の再生に向けた視点に、経緯をまとめ直し、次の日には関連参考書籍と共に持って行った。徐々に彼から想い出話が出てきた。「昭和８年の津波の時、電気工事の人が、残った我が家に泊まり込み、復旧・復興活動をしたのを覚えている。俺も、自分の住む場と共に、復旧・復興の基地になる場をつくりたい。」と、張りのある声で話して下さった。その話に反応し、こちらもいろいろ材料を出したかったが、彼がイメージをふくらませる時間を継続させるため、その日はそのまま退散した。次の日、神戸での復興まちづくり活動の一部である、住民とボランティアが共に汗を流して建てた古民家移築集会所（まち・コミがコーディネート）２）の写真を彼に見せると、２日後には、チェーンソーを借り、木を切り始め、運搬するのが大変で、５日後にはロープをどこからか手に入れた。その後、休み無く山に入った。まち・コミもその様子を発信すると、そこに支援者が集ってきてくださった。彼はチェーンソーの免許等を取りに行き、作業小屋を建てる材料の準備の段取りはなんとか整ってきた。「昔は大工の元で、地域の人が建設工事をしていたのだから（自分達でも建設できるはず）。」と嬉しそうに話し、自ら家を建てるため動き始めた３）。



▲「こいなうぢにしだいでば～（こんな家にしたいなあ）。」と自ら描き始める住民の手

被災者は、大変な中でも、なんとかしなければと模索している。それをまち・コミは、一緒に探していきたい。読者の皆様からも、ご指導よろしくお願いします。

【予告】

①東日本大震災の復興まちづくりの現状報告から、阪神・淡路大震災18年の復興まちづくりを学びます。

日本災害復興学会の分科会（2013年10月12日10:00～）

②御蔵学校　10月14日・10月24日

本誌５ページおよびチラシ参照

【参考文献】

１．故郷を再創造するため－激変の地域共同体、集落誌を編む意義は？－　香寺町史研究室主宰　大槻守さん（神戸新聞　編集委員インタビュー　2013年）

２．台日交流古民家移築事業
http://park15.wakwak.com/~m-comi/project/18/

３．住宅再建自らの手で　「代え難い場所」守る（日本経済新聞2013年8月25日）

ひらく地平
石巻市発

自宅再建 自らの手で

「代え難い場所」守る

高さ20㍍を超える杉が直立する山の斜面から、チェーンソーの音が聞こえる。切り倒した大木を3㍍ほどに切断し、平地まで運ぶ。高橋哲郎（たかはし・てつろう、71）はほぼ毎日、1人で黙々と作業を続ける。「ここに家を建てるんだ」

裏山1人で造成

リアス式の入り江を津波が襲い、町が消えた宮城県石巻市雄勝町地区。高橋の自宅も流失し、自宅裏に所有する山だけが残った。多くの住民が故郷を離れたが、この地に踏みとどまって自宅を再建すると決めた。

津波で流された同市立雄勝病院の前身の病院に診療放射線技師として長く勤め、9年前に退職した。子供はおらず、妻と母は震災前に他界し一人暮らし。田畑で米や野菜、山でシイタケを育て、味噌も手作りする。漁師が魚介類を売りに来るので食材を買いに出かけることはほとんどない。

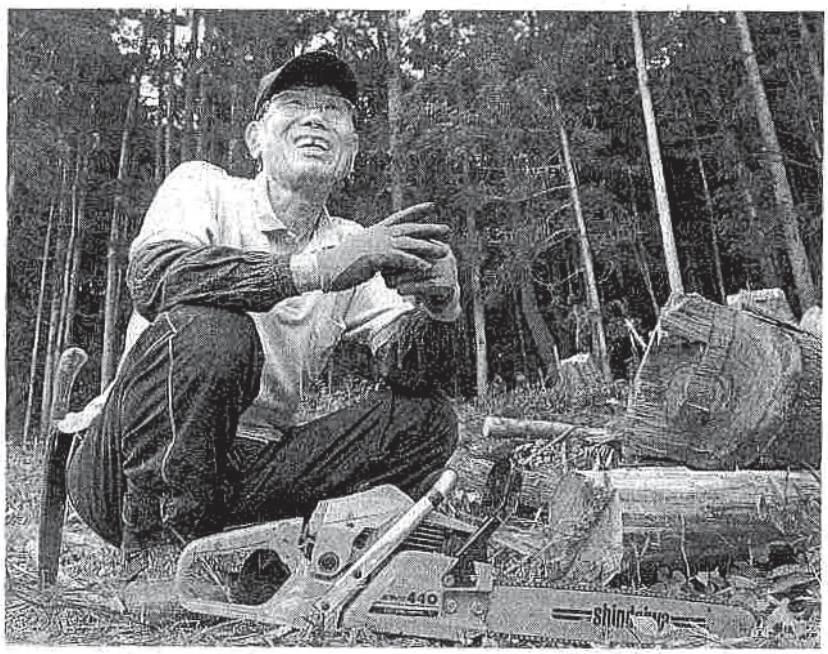
2年5カ月前。裏山の木にしがみつきながら、黒い波が家を押し潰すのを見た。近くに住む姉や義弟ら10人超の親族が行方不明になり、1カ月間、町中を捜し歩いた。知人宅に身を寄せ、布団の中で泣く日々が続いた。

市は住宅地を高台に移転する方針を決めたが、反対意見は多く計画は難航。他地域に移住する人が増え、住民は散り散りになった。一方、自宅跡地を含む浸水域は昨年12月、市の条例で住宅再建を認めない災害危険区域に指定された。

「いつまでも居候するわけにいかない」。町を出るか、高台移転先の造成を待つか。二者択一を迫られたが、別の道を思いついた。「裏山を切り開けばいい」。裏山は災害危険区域からわずかに外れた。

伐採、造成、建築の全てを業者に任せる資金はない。今年夏、できるところまで自力でやると決意した。

林業の経験はなく、参考書を読み込み、チェーンソーの使用に必要な講習を7月に受講した。切った杉を建築資材とするため、工具を使って皮もはぐ。伐採時の振動で奥歯が2本欠けたが、朝から山に向かう。



家造りに向け、杉を伐採する高橋さん

優しさに恩返し

病院勤務時代から思い描いていた自給自足の生活。「震災後、本当に貴い日常だったと気付いた」。雑草で荒れ放題になった故郷を見て、母から「あんたで16代目」と聞かされていた土地を守る使命感も強まった。弟やその息子が将来、家を受け継ぐと約束してくれたことも励みだ。

既に100本以上の杉を切ったが、まだ再建場所への引き込み道路の造成も未着手の段階で、家の着工までにあと1年はかかる。完成しても、災害危険区域である周辺には誰も住めない。不便は覚悟しているが「家を一歩出れば海や山があり、生き物がいる。自分にとっては代え難い場所」と言い切る。

津波の後、様々な場面で人の優しさを感じた。仮設風呂で会話を交わした自衛隊員、窃盗を防ぐため地区を見回る県外の警察官。そして今は、重機をトラックに乗せて定期的に駆けつけてくれるボランティアがいる。

「自分で立ち上がった姿を見せることが恩返しになると思う」。家造りには、そんな思いも込めている。

（敬称略）

文　村岡貴仁
写真　小谷裕美

▲日本経済新聞　2013年8月25日朝刊の記事

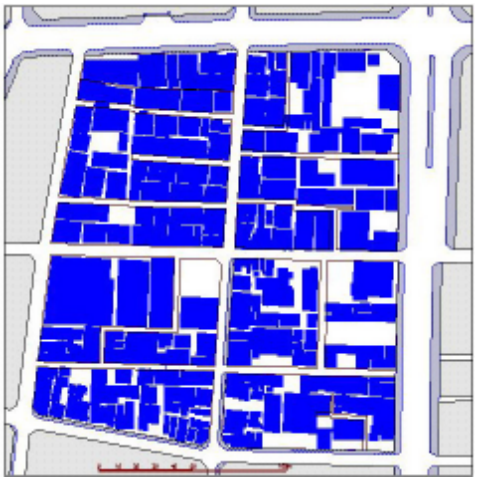
御菅西地区再建状況

～阪神･淡路大震災から19年～

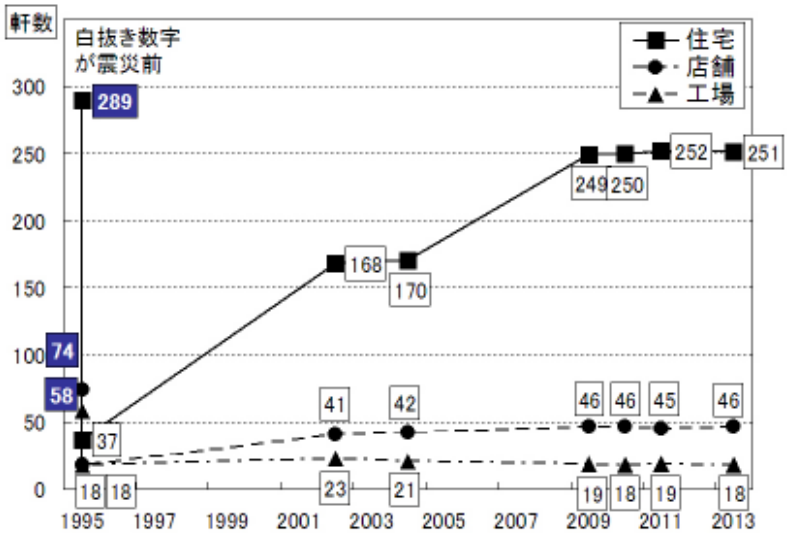
まち・コミでは、復興過程のまちの変化を把握するため、地域再建調査を継続して行っています。今回は2年ぶりとなる2013年8月18日に、調査を行いました。

人口は戻りつつありますが、世帯数の約2/3は、震災後から、地区で住まれている新住民です。店舗・工場は、地区外に出てしまうと、増えない傾向にあります。

震災前（1995年1月）



●建物用途別　軒数の変化



今回の調査（2013年8月18日）

▲空き地だった場所に新しい建物

▲空き店舗が解体され駐車場に

●参考資料　過去の調査はインターネットでご覧いただけます。

1．阪神・淡路大震災からの復興の状況（御蔵地区）

http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-594.html（月刊まち・コミの記録）

2．前回（2010年9月2日）の調査

http://machi-comi.wjg.jp/m-comi/magazine/pdf/11-09.pdf

まち・コミnews

勉強会のご案内　　詳しくはチラシをご覧ください

■2013年10月14日(月・祝)15:30～　懇親会 18:30～

「第20回 御蔵学校」開催

講演　石巻市雄勝町の復興まちづくりの現状　　阿部晃成氏(雄勝地区を考える会)

講演　まちづくり協議会が目指したもの　田中保三氏

(元御蔵通５・６・７丁目町づくり協議会会長)

質疑応答・議論　復興事業と生活再建の狭間で想うこと

津久井進氏(阪神・淡路まちづくり支援機構　事務局長)

神戸のまちづくり関係者・会場のみなさま

受講料:1,000円　　懇親会費:\3,000

■2013年10月24日(木)18:30～20:30

「第21回 御蔵学校」開催

講演　東日本被災地経済復興への視点～阪神大震災に学ぶ～

遠藤勝裕氏(元日本銀行神戸支店長、独立行政法人日本学生支援機構　理事長)

受講料:2,000円(書籍「被災地経済復興への視点～阪神大震災に学ぶ～」を含む)

※ご参加の方は、事前にまち・コミュニケーションまでお申し込みください

大地のつぶやき

～豊中での暑い夏～

敗戦後六十八年目の夏が巡ってきた。メールを見ていたら八月二十日第66回豊中まちづくり・フォーラム「8才での満州引き上げ体験」を語るが目に飛び込んできた。是非聞きたいと思った。小学生の頃沖縄出身の同級生から「沖縄の民間人を巻き込んだ地上戦の惨状、これ程の恐怖はない。本土は空襲はあったが地上戦ではなかったやないか」と言われ、疎開先の福岡の郡部で見た博多の夜空を赤々と燃えさかる状況や空襲警報とB29の不気味な飛行音、防空壕に逃げ込む体験をもってしても一言もなかった。中学時代に親友から朝鮮半島縦断夜行の逃避行の悲惨な話も聞いた。息絶えた肉親を元山に埋めてきた。「大人になったら行ってみたい」と涙ぐんで語った。藤原ていさんの「流れる星は生きている」を再三読んだ。同様手記も何冊か読んでいる。

講師の加藤茂さんは敗戦を機に一気に立場が逆転し、虐待、強姦、略奪のロシア人兵士の恐怖と続く話に戦争の理不尽さを語った。

八月下旬には栄養失調で五才の妹を失う。その後発疹チフスが猛威を振るって流行し、食糧はおろか薬品も手に入らず次々と死者が出る。遂に両親と十才の姉も罹患する。両親は全員共倒れになるのを避け、三才の弟を中国人に預けることを病床で決意する。「茂、お前が発疹チフスにかかったら収(三才の弟)の面倒は誰が見るのだ?」と説得される。三才の弟は茂さんにおぶわれたり歩かされたりして街に行く。旧知の薬屋さんに預ける決意をし、勝手口の戸をそっと開け誰もいないのを確認し、弟を中に入れ小声で「ここで待っててね。絶対外に出ては駄目だよ」「うん」と弟は頷いて勝手口の戸を閉め、一目散に逃げる。親切な中国人に食べ物を貰ったりしてやがて両親や姉が回復する。そうなると弟と一緒に日本に帰りたいので弟を取り戻しに薬屋に行き、弟を盗んで帰ってくる。帰り道「収をおんぶしているのは誰?」と聞く「お兄ちゃん」言葉も忘れていなかった。奇跡だと思う。佐藤さんは「二度と戦争をしないように、子どもたちを守ってやりたい」と話した。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち・コミ活動報告 6/1～8/31

-6/6【復興支援】東北行き
6/6【震災学習】各務原市立緑陽中
6/7-13【復興支援】東北行き
6/15・16【地域交流】出石市民農園
6/19-24【復興支援】東北行き
6/26-7/4【復興支援】東北行き
6/26【研修受入】読売新聞新人記者
6/28【研修受入】東松島、山元町、復興まちづくり支援員視察（神戸まちづくり研究所）
6/30【地域交流】出石市民農園
7/6【地域交流】出石市民農園
7/9-18【復興支援】東北行き
7/20【地域交流】出石市民農園
7/22-8/13【復興支援】東北行き
7/23【視察受入】川徳労働組合視察来訪
7/23【研修受入】関西大学社会安全学部
7/27【研修受入】社会教育主事講習現地演習
7/28【研修受入】石巻・陸前高田・山田町子どもまちづくりクラブ（セーブ・ザ・チルドレンジャパン）
8/4【地域交流】出石市民農園
8/11【研修受入】関西大学菅ゼミ
8/14【地域交流】一滴文庫訪問
8/18【地域交流】出石市民農園
8/18【視察受入】気仙沼
8/18【研究調査】住宅再建調査
8/20-【復興支援】東北行き
8/23【講師派遣】東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）講演

ご支援、ありがとうございます。6/1～8/31（新規・継続）

順不同・敬称略

【正会員】 藤原惠（広島県）　東日本救援隊(愛知県)　**【購読会員】**菅家幹(東京都)　中澤秀雄(東京都)
【賛助会員】小熊英二(東京都)　播本高志(兵庫県)　陳浩明(大阪府)　入口方(兵庫県)　舟橋國男(大阪府)　西條遊児(兵庫県)　鈴木有(滋賀県)　森山正和(大阪府)　街角企画株式会社(大阪府)　中山貴美子(兵庫県)　鈴木ケイ子(新潟県)　田中貴宏(広島県)　谷川一成(兵庫県)　山田美砂緒(東京都)　中林浩(兵庫県)　大久保妙子(兵庫県)　森勢郁生(東京都)　早坂文明(宮城県)　河野睦宏(岐阜県)　下土居希(東京都)　末正盛隆(兵庫県)　六ノ坪合資会社(兵庫県)　津田四郎(兵庫県)　相川康子(兵庫県)　北島繁昭(埼玉県)　樽本憲昭(兵庫県)　日本精機株式会社(大阪府)　橋本敏子(千葉県)　川崎茂(大阪府)　株式会社森口商店(兵庫県)　原田元基(兵庫県)　吉川俊雄(山口県)　関西キリンビバレッジサービス株式会社神戸営業所(兵庫県)　特定非営利活動法人復興まちづくり研究所(東京都)　吉川忠寛(東京都)　鎌田啓通(徳島県)　大東石油株式会社(兵庫県)　所澤新一郎(宮城県)　横田尚俊(山口県)　西村内張商会(兵庫県)　麻生克郎(兵庫県)　齊田哲平(東京都)　久保田克之(兵庫県)　大谷良心(奈良県)　岡本俊雄(愛媛県)　北後明彦(兵庫県)　木村尚子(兵庫県)　秋原孝三(兵庫県)
【寄付】添田朝樹(兵庫県)　鈴木ケイ子(新潟県)　中林浩(兵庫県)　末正盛隆(兵庫県)　六ノ坪合資会社(兵庫県)　青木ユカリ(宮城県)　日本精機株式会社(大阪府)　広原盛明(京都府)　大東石油株式会社（兵庫県）　横田尚俊(山口県)　麻生克郎(兵庫県)　岡田知弘(京都府)　藤原惠（広島県）　北島繁昭(埼玉県)
【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市)　味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中！

認定ＮＰＯ法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。※認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができるようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は１年更新とさせていただいています。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。（期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。）

会員種別

●賛助会員
当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円（学生3,000円）総会議決権：なし

●正会員
当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり
※入会申込書のご提出をお願いしております。

●購読会員
当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

■編集後記　大地のつぶやき（本誌５ページ）でご紹介している内容は、書籍「８歳での満州引き揚げ記 『嗚呼　命』」にまとめられています。(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【郵便振替】
口座番号 ００９５０－３－４２７８８

【三井住友銀行・長田支店】
普通口座 ７６６９６２３

ご寄付もよろしくお願いいたします

2013年9月1日発行　no.4
編集／発行　特定非営利活動法人
まち・コミュニケーション
事務所　〒653-0014
兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961

東北出張所　〒986-0859
宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭　相澤様方

e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます